虹みみず通信

㈲林庭園設計事務所
〒193-0823　東京都
八王子市横川町 1096-3
TEL:042-622-8840

VOL.14

自然素材はやっぱりすばらしい！

穂垣のやさしさ活かして［竹垣　3例］

庭の造形物の中でも、竹垣と石組みは最も日本的な造形といえるであろう。以前、同紙5号で、割竹の竹垣を四例ほど紹介した。

今号では、竹の穂先を使い、よりしなやかで、やさしさを表現した代表的な作例を取り上げ紹介いたします。

S邸の『 みの垣 』（蓑を形取った竹垣）

一例目は、お茶の先生をしているお庭、後方のブロック塀を隠す目的で、昔の雨具である蓑を形取った竹垣。

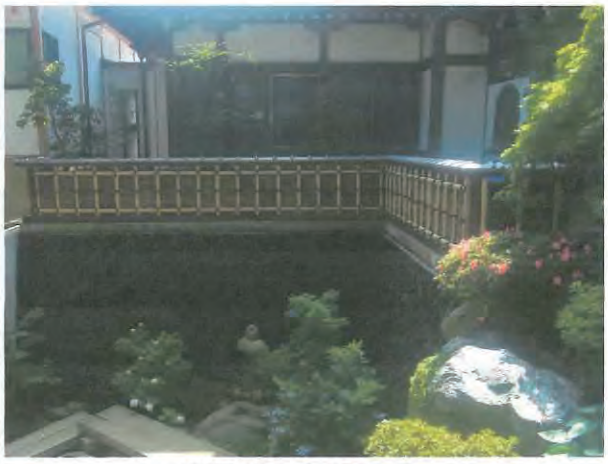
二例目は、竹の穂先を、片側だけ使い突然降りだした夕立、時雨をイメージした、粋な造りです。

三例目は、日本庭園の代表である、桂離宮で創られ使われているその名も桂垣、穂垣の中の穂垣。

昔は、竹垣一つにも豊かな思い入れと、遊び心。経年変化も含め、プラスチックでは得られない造形物。

弊社　美し郷の『 時雨垣 』

花木入門



千葉J寺の『 桂垣 』

嗚呼五月
仏蘭西の野は
火の色す
君はコクリコ
我もコクリコ

この和歌は、与謝野晶子のもの、コクリコとは仏語で、ひなげしの花のこと。夫、鉄幹との間、毎年の如く、十一人の子をなし乍らも、鉄幹がフランスに留学するや、夫恋しさに後を追い。野に咲く真っ赤なひなげしの花を観て、こんな恋の和歌を、詠むのです。

大胆奔放な恋の歌人の面目躍如である。ひなげしは、虞美人草ともいい、虞姫の血の色でもあり、いずれにしても、熱き恋の花です。

天声樹話

ある日、テレビを観ていたら、粘菌の研究をしている小学五年生の少年を紹介していた。

彼は、五歳の時から粘菌に興味を持ち、以来研究をしているとのこと。

粘菌は、かの『知の巨人』南方熊楠が、那智の山中で研究し、植物好きで有名な、昭和天皇に進講したことで、一躍世間に知られることになった生物で、植物でもなく、動物でもない　いわばその中間の生物といわれている。

その活動期は、いわばアメーバのように動き回り、やがてキノコの様になり、胞子を飛ばして子孫を残し、そして死を迎える。

通常、うす暗い林の中の落葉の中や、木の幹などに生息しており、その気になれば頻繁に、ルーペでもよく見付けられるのだそうだ。

この少年は、粘菌が別の粘菌を取り込んで一体化する現象を観て、「〝自分と他人が混じった自分〟どこまでが自分で、どこからが他人か？」彼は、答えより疑問のほうが好きとか、なにやら哲学的である。

答えばかり求める、テレビゲーム世代の中に生きる我々の襟を正された思いがした一コマであった。